

2020年5月19日号
No. 6

対策本部ニュース

発行：全建総連コロナ対策本部
東京都新宿区高田馬場 2-7-15

第1回対策本部会議 WEB 開催

今が団結と連帯の時

仲間のいのちと仕事、暮らしを守ることを第一に

全建総連は5月15日、新型コロナウイルス対策本部（コロナ対策本部）会議を第4回四役・専門部長会議においてWEB会議で行いました。全建総連会館には、対策本部長の吉田委員長、副本部長の松丸副委員長、菅原財政部長、事務局長の勝野書記長、事務局次長の奈良・小倉両書記次長、事務局の10人の専門部長が出席、それ以外の副本部長の副委員長9人はそれぞれ所属の組合本部からの参加で10カ所をオンラインで結びました。



会議では、この間のコロナウイルス感染症拡大による組合と仲間への影響の状況、国交省・厚労省への対策要請、全国会議や行動等の中止・延期についての経過を確認。副本部長からは各地の状況等が報告されました。【3～4頁参照】対策会議では今後も仲間のいのちと暮らしを守ることを第一に新型コロナウイルス対策の取り組みを進めていくことを確認しました。【別記・「新型コロナウイルス対策と仲間のいのちと仕事を守るとりくみ」参照】

吉田委員長は、「コロナ危機のなかで、各組合で感染防止対策を充分に行い、組合員間の距離が遠くなっているが、団結して組合の役割を発揮してがんばりたい。一日も早い終息を願う」と締め括りました。

なお、コロナ対策本部は、週1回のWEBによる事務局会議（専従役員13人）を継続し、第2回対策本部会議は、6月19日にWEBにより開催する予定です。

新型コロナウイルス対策と仲間のいのちと仕事を守るとりくみ

1. 仲間のいのちと仕事、暮らしを守るために全力を尽くそう

- ・ 未知の脅威と闘っています。わたしたち組合が団結し連帯してこの危機を乗り越えていかなければなりません。全国の仲間の皆さん。共に力を合わせて頑張りましょう。今が団結と連帯の時です。

2. 仲間に支援措置等の情報の周知を

- ・ 政府や各行政機関、民間機関等でさまざまな給付金や補助金、融資等の支援措置を行っています。支援を必要とする仲間に伝えていく取り組みが求められています。各県連・組合でもこうした情報に加え、各自治体での支援措置等の情報を機関紙や説明会等のあらゆる機会を通じ組合員に周知していきます。

3. 現場や仲間の実態をつかみ、行政等に伝えていきます

- ・ 現場での感染対策の徹底や、仕事・雇用・収入の確保を求めて、政府や行政、業界団体等への要請・懇談を行っています。また、各県段階でも地元自治体や議員、業界団体への要請・懇談に取り組んでいきます。

4. 当面の会議や行動の開催について

- ・ 8月お盆時期までの全建総連が主催する会議や行動等は、中止・延期・開催形態を変更します。広島(8月5日)、長崎(8月8日)での慰霊祭は、規模を縮小し全国からの参加は呼びかけず、地元組合と全建総連本部代表参加で行います。原水爆禁止建設労働者・職人のつどい(8月5日・広島)は中止とします。【詳細は発文で案内】

5. 予算要求中央総決起大会、予算要求中央行動

- ・ ①はがき要請行動は、各組合の実情にあわせ、できる限り実施。②地元国会議員要請行動は、東京の議員会館ではなく、地元事務所への要請を追及、を基本とします。【全建総連発第60-133号(5月18日)参照】
- ・ 7.9中央総決起大会及び7.21中央行動は、全国からの参加による集会と行動は中止とし、規模を縮小し各省への要請行動と各政党への要請行動を実施します。

6. 対策本部の運営と情報発信

- ・ コロナ対策本部会議の月1回開催および事務局会議(週1回開催)による機能的な運営と、全国の情報の集約や「対策本部ニュース」の発行による各県連・組合への情報提供を行っています。

7. 組合機能の強化の検討

- ・ 組合活動の基本「みんなで論議し、みんなで行動する」が制限されていますが、多くの組合ではパソコンを活用した会議やSNS等でコミュニケーションなどさまざまなアイデアで工夫が行われています。組合の機能を強化し、仲間の求心力を維持していくための努力が必要となっており、その中でIT等の機能をさらに活用した組合活動の展開などを検討していきます。

仕事や組合活動に深刻な影響

支援策の周知と相談体制整備が急務

副本部長 11 人から各地の状況報告

佐々木澄夫副本部長（秋田建労） 感染第2波が忍び寄ってくる。引き締めながら自粛ムードが続く観測がある。組合員からの相談は3件ほど。補助金の相談や、お金の不自由しているという相談があったようだ。ゼネコンの現場には多くの組合員さんがいるわけではない。組合の存在感が希薄になっていくことが懸念される。

江連俊之副本部長（栃木建労） 組合員から、現場、仕事が止まっているという情報は寄せられていない。ただ、組合活動はコロナの影響で集まるのが難しくなっており、思うようにできていないのが実態だ。定期大会も書面で行った。

松丸一雄副本部長（東京都連） マスク・検温・消毒で仕事を進めている。テレワークで家にいるので、現場の音がうるさいという苦情が出ている。

鈴木徳男副本部長（千葉土建） 組合員の状況では、ゼネコン現場は止まっているが、町場の方は通常の仕事をしている。設備関係は（材料が）入ってこないのが進まないようだ。地方からは来ないでくれと言われていたが、千葉の工業地帯は定期修理で忙しく動いているようだ。工業地帯に向かう車が多く見られるので、「このような事態なのに」と行政に苦情

が寄せられているようだ。コロナ陽性者の報告はきていない。顔を合わせられないので、組合活動がしづらくなっている。組織拡大は訪問が出来ない。班会議、分会は、5月6月は中止。

松本吉弘副本部長（石川県連） 緊急事態宣言が解除になったが、リフォームなどの仕事は延期になったという話を聞いている。県連自体の会議が順延になっている。訓練校も人員削減して、運営している。そんなに仕事がないという話は聞いている。

小林裕副本部長（岐阜建労） 名古屋に行く職人が多いので、行けないで遊んでいるという話を聞いている。自分は自宅を直す計画をしていたので順調に行っている。今日から私も仕事に出ているが、基礎が出来たまま動かない現場やプレカット工場も動かない状態になっている。私の身近では組合員ではないが、70代の方が亡くなられた。釘、金物関係は今月に入ってから少し出てくるようになった。

谷内邦久副本部長（大阪建労） 町場の人の声では、仕事が減っているという声は少ない。順調に仕事があると聞いている。業種によっては部材が入ってこないというのは聞いている。ゼネコン現場はストップしているので、町場の方に「仕

事がないか」という声が入ってくる。持続化給付金の問い合わせがくるようになったが、電話が繋がらないと聞いているが、改善策はないか。

三浦賢副本部長（島根建連） 地元の活動がすべて中止になっており、集金とか組合員さん同士のつながりがなくなってしまい、なかなか情報が入らない。定期大会は開催したいと頑張っているのですが、それまでにコロナが終息してほしいと願っている。仕事に関しては順調ではないかと思っている。一時、金物や設備機器が入らないという話も聞いたが現在はそういう話は聞かない。

中西孝司副本部長（香川建労） 保険証交換が忙しい時期でもあり、国保の事務所も閉められないので感染症対策を実施しながら事務所を開けていた。仕事には大きな影響はないが、大きな現場は止まっているので、（そういう現場の方は）仕事がないという声も聞く。うちは一括申告を1200人くらいしているが、持続化給付金について、申告書が要するという人がいるので協力していきたいと考えている。

木村正副本部長（熊本建労） ゼネコンの現場は止まっているが、だいたいの現場は動いている。新築の現場は仕事があるが、クロス屋さんとかリフォーム関係

は施主さんから「来ないでくれ」ということで中止になっている。コロナアンケートを実施して集計しているので、全建総連にも送っていききたい。組織拡大は「来ないでくれ」と言われることもあるので、資料をポスト投函するなどでお願いしている。公共施設が貸出されず、喫茶店でやるなど分会・班会議は苦勞している。組合員関係では感染者は出ていない。

菅原良和副本部長（東京都連） 現場によって厳しい組合員さんが多い。一人親方は仕事が無くなって脱退する事例もでている。持続化給付金や、雇用調整助成金の申請方法や、融資について組合に多数駆け込まれている。我々組合のサポートの大切さを実感している。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

（会議のまとめ）

吉田三男本部長 このような新型コロナウイルス感染症騒動のなかで、全国の各県連・組合では定期大会が多く開催される時期だ。中止や延期はできないと思うので、十分な感染防止対策をとって開催する必要がある。組合員との距離が遠くなってしまっているが、全建総連として、対策の取り組みを進め、コロナ危機に全国の仲間と団結して、組合の存続意義と役割を発揮して皆さんとともにがんばりたい。一日も早い終息を願う。

【新型コロナ関連の記事・写真を募集中】

「対策本部ニュース」では各県連・組合の対策活動や組合員の実態等を取り上げていきます。

原稿や写真を教宣部宛てにメール（E-mail：kyousen@zenkensoren.org）へ送付をお願いします。締切りはありませんので、随時受付をしています。